

八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針(案) パブリックコメント実施結果

八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針（案）のパブリックコメントについて、多くの方からご意見をいただきましたこと、感謝申し上げます。実施結果は次のとおりです。

いただいたご意見を元に検討した結果、本方針の基本となる部分の変更や大幅な内容変更はありませんでしたが、ご意見を参考に、一部文章の修正・追記等を行いました。また、具体的な取組みに関するご意見については、今後のまちづくりに向けた取組みの検討の参考とさせていただきます。

1 パブリックコメント手続きの概要

(1)実施概要

- ・ 実施期間：平成 30 年 10 月 1 日（月） から 10 月 31 日（水） （31 日間）
- ・ 周知方法：広報はちおうじ（平成 30 年 10 月 1 日号）、市ホームページ・Facebook・Twitter
- ・ 資料配付：市役所（都市総務課、市政資料室）、各事務所・市民センター・図書館、市のホームページ
- ・ 提出方法：直接、郵送、ファックス、E メール

(2)素案説明会

- ・ 平成 30 年 10 月 10 日（水）午後 7 時～午後 9 時（由木東市民センター） 参加者 23 名
- ・ 平成 30 年 10 月 13 日（土）午前 10 時～午前 12 時（南大沢市民センター） 参加者 9 名

2 意見の概要

(1)意見の提出状況

- ・ 提出者数：15 名
- ・ 意見数：62 件

(2)意見の分類

分類	件数
①課題の整理に関するご意見	1 件
②目指すまちの姿 1 「住民が安心して住み続けられ、子育て世代に優しい元気なまち」に関するご意見	3 件
③目指すまちの姿 2 「良好な基盤や住環境を保つ、みどり豊かなまち」に関するご意見	16 件
④目指すまちの姿 3 「民・産・学・公の協働による、活力あるまち」に関するご意見	24 件
⑤取組みの推進等に関するご意見	12 件
⑥その他の事項に関するご意見	6 件
合計	62 件

3 意見の要旨と市の考え方

①課題の整理に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	方針（案）では、地域ごとの課題を整理しているが、地域の特徴、現在直面している課題、将来直面する可能性のある課題別に整理してほしい。多摩ニュータウン八王子市域は、面積・人口が自治体に並ぶ規模。また、1976年の鹿島入居に始まり、堀之内や鏈水では今後も開発され、地域による特徴や課題は大きく異なっているはず。そうした課題をおおよそ整理しているが、今後の展望や施策を考えるには不十分。地域ごとに課題等が整理できていないことが、方針や施策展開をどこから始めればよいかわからない空気論に終始しているように感じる一番の原因と思う。方針が多摩ニュータウンの今後のまちづくりに向けた羅針盤となるためには、地域ごとや同じ悩みを抱えている人ごとに長所や短所、課題を共有でき、同じ方向を目指して議論を進めるための土台となることが必要不可欠。多摩ニュータウン全体が抱えている課題とその中の地域ごとに抱えている課題は分けて丁寧に整理する必要がある。	方針（案）では、課題の整理として、地域ごとの課題を整理し、記載しています。 ご意見を踏まえ、記載等を追記します。 なお、今後のまちづくりにあたっては、地域課題の抽出、施策の展開等について、地域の皆様と共に取り組み、地域の状況・ニーズに合わせた地域住民が主体となったまちづくりを進めていく考えです。

②目指すまちの姿1「住民が安心して住み続けられ、子育て世代に優しい元気なまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	方針（案）の「目指すまちの姿」には、将来のまちの姿、将来像が示されていると思うが、「住民が安心して住み続けられ、子育て世代に優しい元気なまち」とあるが、「住民が安心して住み続けられ、あらゆる世代に優しい元気なまち」と記述すべき。ニュータウンは、働く世代の夫婦と子供2人の家族構成を標準に計画され、小学校や集合住宅を建設し、道路・公園のインフラを整備されている。子育て世代だけを記述するのは違和感がある。今後、高齢化はますます進行するので、高齢化対策も最重要課題のひとつ。高齢者はニュータウンに住めないのか、住むことを拒否したまちの姿と見えてしまうのは大変問題。説明会では、「関係部局と調整し、生産世代を重視した姿を表現した」という趣旨の説明があったと思うが、理解できない。弱者切り捨てにつながる危険性があると思う。「まちづくり方針」には「子育てしやすいまちづくり」の記載があるので、子育て世代のことについては、それで良いと思う。	方針（案）では、目指すまちの姿1として「住民が安心して住み続けられ、子育て世代に優しい元気なまち」と記載しております。これは、高齢者を含め、現在地域に住む皆様が安心して住み続けられるとともに、多摩ニュータウンに多く整備されているファミリー向け住戸や歩車分離の道路環境等を活かし、子育て世代に選ばれるよう、子育てしやすく、活気あふれるまちの姿として記載したものです。ご意見も参考に、将来像の実現に向けて、様々な主体と連携した取組みを推進してまいります。
2	利益を上げる為のまちづくりはいずれ破綻する。高層マンションが建ち並ぶまちではなく、子どもたちが安心して遊べるまちが良い。	
3	方針（案）の「地域コミュニティの形成促進や防災・防犯活動支援」は、「首都直下地震」、「南海トラフ巨大地震」等の名称を入れた方がよい。具体名を記載することで、日々の備えや被害をより具体的にイメージしやすくなる。	方針（案）では、まちづくりの方針として「地域がつながり、安心して暮らせるまちづくり」を記載し、主要な取組みとして「地域コミュニティ活動の支援」、「防災組織結成や防災活動の支援」を記載しております。ご意見を踏まえ、今後発生が予想される大規模地震に関する記載を追記いたします。

③目指すまちの姿2「良好な基盤や住環境を保つ、みどり豊かなまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	30年ほど前に設計された公園の多くは管理が行き届いていない。公園の数も多く、予算不足も要因か。	方針(案)では、まちづくりの方針として「みどり豊かなまちのマネジメント」を記載しております。 ご意見も参考に、多摩ニュータウンの良好な都市基盤や豊かなみどりの効果的・効率的な維持・管理・更新や多様な主体と連携した利活用等を促進し、将来にわたり住みよいまちを目指してまいります。
2	歩車分離がされており安全で、環境も良く空気も綺麗で住みやすい街なので、大変気に入っている。	
3	公園の木を切り、防犯上明るくして、子どもも老人も誰でも遊びに会話に集まれるようにしてほしい。松が谷では整備から40年以上経ち、当初と樹木の状況が変わっているの、今の茂った状態を良しとしないしてほしい。	
4	学校通用門を出たところの道路の側溝フタが壊れていて、市に通報した事がある。学校の管理者は通学路を時々みて、対応する必要がある。	
5	山岳地帯で、高齢者の通行が大変な通路が多い。	方針(案)では、まちづくりの方針として「快適に生活しやすいまちづくり」を記載し、主要な取組みとして「移動しやすい環境づくり」を記載しております。 ご意見も参考に、高齢者等の移動や高低差の大きい多摩ニュータウンにおける新たな交通システム等について、検討してまいります。
6	平成29年5月に自転車活用推進法が施行、平成30年6月には自転車活用推進計画が閣議決定され、これを受けて自治体でも自転車活用推進計画の策定やシェアサイクルの実施が望まれている。方針(案)では「丘陵地における移動しやすい環境づくり」として「高低差がある丘陵地が多いため高齢者等にとっては徒歩移動に負荷がある状況になっている」との認識のもと「移動しやすい地域づくりの促進」を掲げているが、具体的にはコミュニティサイクルが例示されているのみで、残念ながら認識は正しいにもかかわらず具体的な施策展開がない。今やシェアサイクルは全国各地の先進自治体で実施され、多摩地域では既に府中市が本格的に実施、稲城市が平成29年9月25日から実施、近い将来50か所でサイクルポートを設置する予定である。国もシェアサイクル普及のため2020年までにサイクルポートを1700か所まで倍増させる計画である。高齢化社会の現在、坂の多い多摩ニュータウン内を移動する負担を減らすための交通システムとして、電動自転車によるシェアサイクルは最適である。歩行者専用道路が多く設置され、徒歩交通基盤が整備されている多摩ニュータウンは、シェアサイクルのひのき舞台となりうるチャンスであり、自転車活用を推進する国全体の大きな流れの中で、多摩ニュータウンをまたとない実証の現場とすることができる。八王子市は市域が広大で丘陵地帯が多く、多摩ニュータウンでのシェアサイクルの成功は、市全域での成功につながる。方針(案)の骨格の一つとして「シェアサイクルの早期実施」を強く希望する。	
7	鏈水二丁目のバス停留所予定地に南大沢駅行きのバスを運行して欲しい。10年以上前、将来バス便が通るとのことで、それを前提に自宅を購入したが、開通した運行予定地もあったが、小中学校も近くにある自宅周辺で運行しないのは理不尽。高齢になり自家用車がない世帯は不安に感じている。	
8	南大沢ばかり力を入れず、松が谷にも力を入れてほしい。松が谷・鹿島方面から南大沢方面までミニバスを出してほしい。市の中心には路線バスがあり、ミニバスは必要ないのではないか。	
9	バス停に椅子を置いてほしい。他の地域では椅子や、バスが今どこまで来ているか知らせるマシンがついている。通院する老人が多いのでお願いしたい。	方針(案)では、まちづくりの方針として「快適に生活しやすいまちづくり」を記載し、主要な取組みとして「団地内商店街(近隣セン
10	住宅団地の核を商店街としたまちづくり。地球温暖化に直結する自動車利用を減らす必要があり、日常生活に必要なことは徒歩10分～15分で解決できるまちづくりが大切。	

③目指すまちの姿２「良好な基盤や住環境を保つ、みどり豊かなまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
11	八王子市内の多摩ニュータウンは、先行的に開発が始まった鹿島、松ケ谷で、他地区より高齢化が進行している。地域で暮らす高齢者が最も求めていることは、移動しなくても人と関わり、地域で苦労しなくても食を手に入れられること。	ター)の活性化と利活用」を記載しております。 団地内商店街においては、東京都住宅供給公社(以下、「J K K」という。)等とさらなる連携強化を図りながら、ご意見や消費者の動向も参考に、商店等の立地促進や空き店舗の有効活用を推進してまいります。
12	多摩ニュータウンは、1住区に小学校2校、中学校1校の500m圏内で生活ができる考え方で開発され、そこに若い世代が入居した。開発から時間が経ち、住民が高齢化してきた。学校だけですべてを補うことはできない状況で、地域の団地内商店街(近隣センター)等は、大手小売業に押されてシャッターを下ろしたままになった。まちづくりでは、それらの活用を考える必要がある。	
13	松が谷では、スーパーのテナントが3回変わったが、賑わったのは初めのスーパーヤマザキのみで、ついには撤退してしまった。近くにはコンビニもないので、京王ストアの週1回の移動販売はありがたい。小さくてもいいのでコンビニが必要。	
14	松が谷で生まれ育った子どもが生涯にわたり住みつづけられるようまちづくりをしてほしい。例えば、面積が小さい住居は2戸を連結する等、工夫して住居面積を大きくし、多世代が住めるようにする。	方針(案)では、まちづくりの方針として「住宅ストックの有効活用と適正管理」を記載しております。 住宅等事業者の都市再生機構(以下「U R」という。)、J K K、東京都等とのさらなる連携強化を図りながら、ご意見も参考に、住替えや近居の支援、空き家・空き室等の有効活用等を促進してまいります。
15	松が谷に入居当時、頑張って仕事とまちづくりに努力した人は高齢化や死去される方が増えている。入居から40年経てば、高齢化が進むのは当たり前。小さかった子ども達や若い人達が増えないのは、住み続けられる住宅がないから。住宅確保の方策が先決。	
16	松が谷は八王子駅まで遠いが、新宿に行くのが便利で交通の便が良く、文化面、教育面も良い。住めば都で、家はせまいが気に入っている。若い人がこういう気持ちになれば松が谷に住む人数も増えるだろう。そのためには、次世代をにう若い人が住める住宅が、魅力ある松が谷のまちづくりが必要。	

④目指すまちの姿3「民・産・学・公の協働による、活力あるまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	京王相模原線の朝の通勤時の運行本数が少なく混雑して苦痛。また運賃も高額。非正規雇用で交通費が支給されないと自己負担になり、多摩ニュータウンへの居住が難しい要因となる。都心から遠く、睡眠時間も減り、体力も消耗する。少ない多摩地域での求人に常時応募しているが、応募者が殺到しており、労働人口は相当数ある。優良企業を多摩ニュータウンに誘致してほしい。	方針(案)では、まちづくりの方針として「新たなビジネスや駅周辺地区の産業振興」を記載し、主要な取組みとして「企業立地の促進」を記載しております。 ご意見も参考に、今後も「八王子市企業立地支援条例」の仕組みの活用等を通じて、企業立地を支援してまいります。
2	飲食店はチェーン店ばかりで個人経営の魅力ある店がない。駅周辺、特に南大沢駅は飲食店が不足している。	
3	IT企業等、将来性ある企業の誘致が出来なければ、若年・中年層は定住しない。スローガンのみにならないように。国家戦略特区でなくても、出来ることはあるはず。近隣の相模原市等を参考に、住環境を乱さない企業誘致等が容易に出来るようにする本格的な実施計画を考えてほしい。	
4	八王子市や多摩ニュータウンには多くの大学があるが、都心回帰の動きがある。都心回帰を止めるためにも、学生が住み、学べるように、便利な住居を安価に提供できるような施策や、卒業後の定住のために企業誘致の施策を実施してほしい。	
5	行政だけでは手が回らない課題が多々あることは周知の事実。自治会に、防犯、防災に関する告知や研修のお知らせが多々送られ、自主防災組織の立ち上げの依頼もある。特に自主防災組織には、市も助成や研修を行っており、災害対応の重要な組織で、地域住民の安否確認や災害弱者への援助も委ねられており、地域の状況を常に把握する必要があるが、民泊の手続きにあたって地域の自治会や自主防災組織に周知が図られないことや、避難所運営委員会設立の動きがない等、市の縦割り行政の弊害があると思う。地域住民組織が有効に活動できるよう、地域住民との協力を忘れず積極的に働きかけて欲しい。	方針(案)では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「地域マネジメントの推進」を記載しております。 今後、ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向けて、地域の皆様や企業、大学、NPO等とのさらなる連携強化を図ってまいります。
6	100年後の暮らしをどうするのか、住民の声や意見をこれからも聞いてほしい。	
7	多摩ニュータウン周辺の大学と連携し、生活サポートをするような高齢者支援や、開発時にはなかった福祉施設が地域参加する等、福祉事業が地域振興に参画する取組みが出来るのではないかと。そのために大学、福祉事業者等の人たちが都市計画やまちづくりを学んで地域に貢献する時代になっていくべき。「地域住民もまちづくりを学ぶ」ことを市民サービスで取り組むべき。	
8	方針(案)の資料等がカラーでわかりやすく、また地図、写真も多用されていて、理解を助けるものであった。また、ワークショップで出された意見なども参考になった。今後も、地域マネジメントの主体として住民が積極的に参加できるよう、情報公開、協働等について十分配慮いただきたい。	
9	雪の日、松が谷中学校の通学路で、80才過ぎの老人が1人で雪かきをしていた。中学生の子供たちがみんなですればすぐ終わる。ボランティア精神の教育も必要。	

④目指すまちの姿3「民・産・学・公の協働による、活力あるまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
10	鹿島・松ヶ谷地域に専門医療機関や大きな病院がなく、自宅から近い近隣自治体の病院を利用しており、多くの住民が同じ状況と推測される。一方、八王子市の健康診断は八王子市内の病院での受診となるため、縁もゆかりもない遠い病院へ行くが、治療が必要となれば近くの病院を利用するため、検査からやり直しになる。また、遠くの知らない病院へ行くのをためらって、健康診断を受けない人もいる可能性が高いと考えられ、それでは予防医療の意味がなくなってしまう。できるだけ早急に近隣自治体の医療機関との連携を始めて欲しい。	
11	バスのダイヤが変わって、少ない時で1時間に1本等、本数が減り、僻地になった。松が谷高校方面のみ優遇されて、大塚公園バス利用者は不便。また、桜ヶ丘行も1本か2本。通院している人もいるが、とても不便。バス会社に市からもっと言ってほしい。	
12	外国人居住者が増えているが、ゴミの出し方が周知されていない。また、騒音問題も発生している。	市では、外国人も日本人も安心して暮らせるまちを目指して、外国人のためのくらしの便利帳の発行やゴミの出し方の周知等の取組みを行なっています。 また、方針(案)では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「地域マネジメントの推進」を記載しております。 今後、ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向けて、地域の皆様や企業、大学、NPO等とのさらなる連携強化を図ってまいります。
13	数年前、対策をとったため数が少なくなったが、松が谷中学校の裏側の道路で猫に餌をやっている人がいて、野良猫が増えて困っている。広報等でとりあげてほしい。	市では、地域猫活動ガイドラインを策定し、野良猫の被害等を地域ぐるみで解消していくための考え方を示しています。 また、方針(案)では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「地域マネジメントの推進」を記載しております。 今後、ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向けて、地域の皆様や企業、大学、NPO等とのさらなる連携強化を図ってまいります。
14	方針には大きく期待しているが、方針案全体を見ると、ニュータウン地域の大部分が他市と隣接しているものの、八王子市の中央部分を統括する旧来の行政手法・目線で作成されている印象を受けた。鹿島の地域課題は、ほとんどが近隣自治体や市内の隣接地域との協力で解決できると思う。柔軟な対応を取れば過大な財源を必要とせずに対応ができるのではないか。	方針(案)では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「地域マネジメントの推進」や「自治体間の連携強化」を記載しております。 今後、ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向けて、地域の皆様や近隣自治体とのさ

④目指すまちの姿3「民・産・学・公の協働による、活力あるまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
15	鹿島・松が谷地域では少子化が進み、小学校が3校から2校に統廃合され、鹿島の児童館は松が谷の分館となり、従来より利用しづらくなった。一方、越野・堀之内・東中野周辺の19住区の開発の影響等もあり、学区が隣接する由木東小学校は生徒数が増加している。鹿島・松が谷地域だけの事情で小学校の統廃合を計画するべきでない。隣接する多摩市の愛宕・和田地区は、多摩ニュータウン区域を超えた学区の見直しを行い、適正規模の小学校となったことを考えれば、鹿島・松が谷地域においても隣接地域との連携は必要。また、マンション老朽化に伴う建替えを行えば、住人が増える可能性もあるので、それらを踏まえた大きな枠組みで考える必要がある。多摩市の西愛宕小学校が廃校になり、近くにある八王子市の鹿島小学校ではなく、多摩市の愛和小学校に通学することになった児童もいる。法的に難しいかもしれないが、近隣自治体と連携した公立学校の学区制定を望む。	らなる連携強化を図ってまいります。
16	鹿島・松が谷地域から、公共交通機関を利用して乗換えなく近隣自治体に行けるが、八王子駅には行きづらい。八王子駅まで多摩都市モノレールの延伸が実現しても、近隣自治体の商業施設・病院・行政機関のある場所を経由する。高齢化にともなって自家用車の運転が難しくなれば、公共交通機関に頼らざるを得なくなるので、様々なサービスが近くで受けられるよう近隣自治体との協力が必要。	
17	単純な届出や書類・証明書等の発行だけでなく、自主防災のリーダー研修等の研修も含め、南大沢でほとんどの行政サービスが受けられるよう、政令指定都市の区役所並みのサービスを行えるようにして欲しい。また、近隣自治体の市役所や事務所、少なくとも最寄り駅の近くで簡便なサービス（住民票、戸籍謄本、印鑑証明等の発行等）の手続きができるようにして欲しい。	
18	「市長と語る」において、災害時は近隣自治体と連携を取る旨の回答があった。しかし、大雪の後、鹿島・松ヶ谷地域での除雪は、多摩市と八王子市で各々行われ、八王子市部分が除雪されないことがあり、八王子市民だけでなく多摩市民にも迷惑をかけている。市にも相談しているが、近隣市との協力は考えていないように感じる。また、八王子市の災害物資拠点は当地区から離れており、災害時に近隣市の援助が必要となる場合や、逆に多摩市民が鹿島小学校などを避難所として利用する可能性も高いと思う。近隣自治体との協力をもっと進める必要がある。	
19	松ヶ谷は、歩いて3分で多摩市であり、多摩テレビ放送などの文化面や生活、大きな医療也多摩市に依存している。松が谷や鹿島にもっと光を当ててほしい。	
20	松が谷団地に街開き（昭和51年春）から住んでいる。高齢化の進行、住宅団地の老朽化、団地内商店街が衰退している。これは、J K Kの賃料が高いことによる不採算も大きな原因と思われる。特にスーパーマーケットは6年半空いている。民間不動産業者であれば、空き家の状態よりも賃料を下げて貸出すと思う。住民もスーパーマーケットがなく不便。賃貸店舗の家主であるJ K Kと市の連携でなんとかして欲しい。	方針（案）では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「住宅等事業者との連携強化」「東京都・住宅等事業者・大学等との情報共有」を記載しております。ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向

④目指すまちの姿3「民・産・学・公の協働による、活力あるまち」に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
21	多摩ニュータウンは、都心から離れ、駅からも遠く、築30年ほど経過しているが、家賃が高い。常時空室があるが、埋める努力もしていないと思う。家賃を抑えて空室を埋めてはどうか。また、駅から近いベルコリーヌ南大沢には単身者用の住戸がほとんどなく、単身者が手頃に入居できる住居を増やしてほしい。高齢者の年金生活でも長く住み続けられる制度を作してほしい。それが公共住宅の使命ではないか。	けて、住宅等を管理するUR、J K K、東京都等や、地域住民との連携強化を図ってまいります。
22	ベルコリーヌ南大沢では、無印良品の内装にして集客を図ろうとしているが、建物の構造は古い。内装だけの変更には限界があると思う。	
23	来客用の駐車場がなく、駐車違反が多い。訪問介護の送迎用の駐車スペースがないのは困る。	
24	方針（案）の将来像にある「持続可能なまちづくり」には、集合住宅等の屋根を利用した再生可能エネルギー等も検討すべき。「持続可能なまちづくり」は「持続可能な生活」でもあり、東日本大震災時の計画停電のことも鑑み、生活に欠かせない電気の安定供給の検討も必要。	市では、環境基本計画（平成26年3月策定）を策定し、また、再生可能エネルギー利用機器設置費補助制度を設け、再生可能エネルギーの利用を推進しております。 また、方針（案）では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「住宅等事業者との連携強化」「東京都・住宅等事業者・大学等との情報共有」を記載しております。 ご意見も参考に、様々な地域課題の解決に向けて、地域の皆様や住宅等を管理するUR、J K K、東京都等との連携強化を図ってまいります。

⑤取組みの推進等に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	今後、取組みをどのような方法で推進するか見えてこない。方針案ではPDCAサイクルで推進する記述があるが、どのような時間軸で推進するか、実施計画の一部として事業計画やアクションスケジュールの記載がないのは問題と考える。	取組みは、地域ごとに異なる多摩ニュータウンの状況を踏まえ、地域ごとのニーズや状況のCheck（点検・評価）から行うCheck（点検・評価）→Action（処置・改善）→Plan（取組みの計画）→Do（実行・実施）のCAPDマネジメントサイクルを用いて推進します。 ご意見も参考に、地域に必要な取組みや関係する主体を地域の皆様と整理しながら、地域の状況に合わせて必要な取組みを処置・改善し、計画的に取組みを推進します。 今後のまちづくりにあたっては、地域課題の抽出、施策の展開等について、地域の皆様と共に取組み、地域の状況・ニーズに合わせた地域住民が主体となったまちづくりを進めていく考えです。
2	方針案の施策展開では、具体的展開をどうするのかが見えてこない。実施計画書や、平成31年度予算書でその内容を発表していただきたい。	
3	多摩ニュータウンは、新住宅市街地開発法等により出来上がった。現在の状態になるのを見通して開発してこなかった責任は「国」・「都」にあるので、計画の甘さで生じた課題に対して「国」・「都」は財政措置を講じるべき。住民の「地域愛」で解決できる問題ではない。特に鹿島松が谷地域の高齢化が進行し、その上市政世論調査でも分かるように「地域の活動に参加することに意義を感じない人」が多数。財政的裏付けの無い方針は絵に描いた餅でしかない。「夢」ではない実現可能な方針になることを望む。	
4	多摩ニュータウンは野猿峠を含む東西の丘陵の南側にあり、住民は、八王子市民というより多摩ニュータウン住民という意識。市の施策の効果を受けられていない意識を持つ人が多い。多くの人が市外から転入し、京王相模原線を利用して生活し、地理的にも市の中で独立している。他地域と感覚のずれが非常に大きく、多摩ニュータウン住民がこれまでの市の施策や市政をよく分からないのは当然。市が実施してきた施策とその効果についてしっかり総括・検討してほしい。	
5	方針（案）のまちづくり方針と施策展開に加えて、P22の図で分類している地域ごとに、まちづくり方針、時間軸に沿って施策展開を提示して欲しい。方針（案）記載の施策等は、多摩ニュータウン八王子市域全体を一般化し、方針や施策の選択肢を示したもの。方針や実践的な選択肢の提示は必要だが、その選択肢をいつどのような場面で活用すべきか、方針案では全く想像ができない。多摩ニュータウンと一言でまとめると、今回の方針は、ただなんとなく住民の意見を聞いてまとめたものになる懸念がある。地域の課題を、地域の資源や長所を組み合わせ、地域ごとの方針や施策展開を記載することが、今後のまちづくりに向けた羅針盤となるための最低限の要件。	
6	地域ごとの施策について、時間軸と合わせて記載して欲しい。現在高齢化が進む地域、十年後高齢化が進む地域、三十年後高齢化が進む地域等は、今の統計情報から概ね予測ができるはず。その時代時代に、地域ごとの課題は異なると思うが、現在高齢化が進んでいる地域の知見が、三十年後高齢化が進む地域の対策になることも考えられる。知る限り、八王子市が多摩ニュータウンにここまで力を入れて取り組んでいるのは初めてのこと。八王子の端だが、多摩ニュータウンの中核を担う地域において、せめてそれぞれの地域が同じ方向や課題を共有しながら、議論ができるよう、方針をまとめて欲しい。	

⑤取組みの推進等に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
7	方針（案）のまちづくりを進めるには、行政も本格的な体制が必要。政令指定都市のように八王子市を区制にすることは簡単に出来ないで、多摩ニュータウン地域を特別に扱い「支庁」を設け「まちづくり」部局を設置し、職員の削減や異動等も行わず、本格的な体制が必要ではないか。	多摩ニュータウン地域には、由木地域事務所の管内として、南大沢事務所、南大沢保健福祉センター、生涯学習センター南大沢分館等があります。 ご意見も参考に、今後のまちづくりにあたり、市の様々な部署のさらなる連携強化を図ってまいります。
8	取組みの関係主体として、行政、地域住民、大学等、企業、住宅等事業者を掲げているが、取組みの内容によって各主体の位置づけ、重みが異なるので、この表現では推進力が機能しないと思う。今日の状況では全て行政まかせとはならないが、各主体が重層的に行動するためにも行政の指導力や役割が必要なので、記述するべき。	方針（案）では、将来像実現に向けた役割として、行政、地域住民、企業・住宅等事業者、大学等のそれぞれの役割を記載しています。様々な地域課題等に効果的に対応していくために、ご意見も参考に、様々な主体との連携・協働を推進してまいります。
9	方針（案）の「地域マネジメントのイメージ」の図中、「連携・協働・支援」を担う想定の人々等の具体例を示した方が良い。「連携・協働・支援」の要となるコーディネート役・機能が必要で、その人材・機能に関して費用が発生するのであれば、予算確保が必要。	
10	松が谷は、近くに大学があり、松が谷小は大学生や高校生との交流も盛んで、農家とも交流がある。今の松が谷の欠点はどうすれば長所になるかを考えるべき。近くの首都大学東京に都市計画関係の専門家等がいるが、住民が一番よく分かっている。ただし、みんな自分のことでいっぱいであろうとしない。やはり八王子市の役所が頑張って考えて実行する必要がある。一個人では何もできない。これから先のことを考えて、今何をすべきか、できることから実施してほしい。どうぞがんばって下さい。	
11	地域マネジメントが実践可能な体制や活動への具体的な支援手法をリストとして提示してほしい。今後の多摩ニュータウンで住民主体の地域マネジメントは必要だが、体制づくりや活動を始めようと思いついても、元々の地縁組織や住民同士のつながりが他地域に比べて希薄で、導入障壁が高い。八王子まつりやいちよう祭りのように、地域を挙げて取り組めるイベントを通じて、同じ課題等を感じる人たちが集まれる機会や場所があると良い。基本的に組織作りの支援だと思うが、そういった取り組みを始めたいと思いついたときに、地域マネジメントの実現までのプロセスや、どのような支援が受けられるか、方針を通じて共有できると良い。	方針（案）では、まちづくりの方針として「多様な主体の連携・協働によるまちのマネジメント」を記載し、主要な取組みとして「地域マネジメントの推進」を記載しております。地域マネジメントの実現にあたり、地域の状況や取組みの内容に応じた様々な支援を行っていく考えです。 ご意見を踏まえ、地域マネジメントのための支援の仕組みの例を追記いたします。
12	方針（案）の検討にあたり、ワークショップが4回開催され、様々な意見・提案が出たが、何が方針案に盛り込まれたか分からない。ワークショップと方針案のつながりや行政として整理した過程等が不明なので、示して欲しい。	方針（案）では、方針策定にあたり開催した「多摩ニュータウンまちづくりワークショップ」について開催経過や検討結果等を記載しております。 ご意見を踏まえ、検討結果と方針の内容について、対応する部分を整理し、追記いたします。

⑥その他の事項に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
1	八王子駅周辺等、北側には体育館等が充実しているが、南大沢周辺ではグラウンド等があるのみで、南大沢周辺から市の体育館を利用するには車等での移動が必須で大変不便に感じている。南大沢周辺にも公立体育館、武道場、弓道場を建設してほしい。 南大沢周辺に体育館が出来れば、陸上関連の学生以外にも、南大沢の利用が便利になり南大沢駅前のアウトレットも相乗効果があるのではないか。	市では、スポーツ推進計画（平成26年3月策定）を策定しており、スポーツをする場を整備・確保することに取り組むこととしています。 ご意見も参考に、財政面等、様々な視点から施設整備に関する状況を整理していきます。
2	自閉症・情緒障害特別支援学級が市内に無く、必要としている子どもが適切な教育が受けられない、または他市へ引越せざるを得ない状況で、親や子どもへの負担が大きいので、人に優しい町になってほしい。AD／HD・アスペルガー等のグレーゾーンの方たちにとって、もう少しあたたかい社会になると良いと思う。見た目に分かる障害ではないので、生活が難しい状況にも目を向けて欲しい。	市では現在、知的障害を伴わない自閉スペクトラム症やADHD等の発達障害のお子さんへの指導については、全小学校に設置している特別支援教室において在籍校での教科の指導を受けながら、専任の巡回指導教員によって個別もしくは小グループにより障害の特性に応じた指導をしています。また、中学校では情緒障害等通級指導学級において設置校へ生徒が通うことにより同様の指導を行っています。（知的障害のある発達障害のお子さんについては特別支援学級での指導をお考えいただけるよう、就学相談をおすすめしています。） ご意見は今後の参考にいたします。
3	市内他地域や多摩市には大きな病院があるが、電車・バスを利用する必要があり、不便。夜間の救急車は、受入れ先を探すのに数時間がかかる等、遠い病院に行くことも多いようだ。多摩ニュータウン八王子市域に地域の緊急医療の中核となる総合医療施設を設置または誘致してはどうか。	市では、東京医科大学八王子医療センターと東海大学医学部付属八王子病院を市の中核病院として誘致し、地域医療体制の充実を図っています。救急体制については、市内では、休日・夜間を問わず受入れ可能な病院が9病院ある他、町田市・多摩市・日野市・稲城市を加えた南多摩医療圏では20病院となり、多摩ニュータウン八王子市域周辺には多摩南部地域病院や、野猿峠脳神経外科病院、多摩丘陵病院等があります。 また、東京都は、高齢化の進展にあわせ、病床数を増やしていく考えであり、ご意見も参考に、市としても地域医療体制の充実に向け、東京都と連携しながら取り組んでいく考えです。
4	民泊に関する条例では、民泊事業開始にあたり近隣住宅に周知を行えば良く、地域の自治会や自主防災組織は対象ではない。これらの地域住民による組織は、地域住民や住宅事情の情報がないと効率的に活動することができないことは明らか。行政の民泊を管轄するセクションが、条例制定の際に地域住民組織の役割や防犯・防災に考えが及ばなかったためと思われる。同じ市の中でこのような矛盾が無いよう徹底してもらいたい。	市では、住宅宿泊事業（民泊）の適正な運営を確保し、市民の生活環境の悪化を防止するため、「八王子市住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例」を制定しており、住宅宿泊事業を開始する際は、近隣住民への周知を義務付けています。 ご意見も参考に、今後のまちづくりにあたり、市の様々な部署のさらなる連携強化を図ってまいります。

⑥その他の事項に関するご意見

番号	意見の要旨	市の考え方
5	各自治体において「避難所運営委員会」が設立され、避難所となる学校と地域の自主防災組織との連携が図られている。東京都も推進しているものの、八王子市でその動きがみられない。担当セクションも不明瞭。避難所運営委員会があれば、自主防災組織活動のコアになるので、地域防災において大いに役立ち、より安全・安心な地域に貢献できると思う。さらには、多摩ニュータウン地域だけでなく隣接地域との連携も図れば、より良いまちづくりができるのではないかと。	市では、災害時の円滑な避難所の開設、運営等に向け、避難所運営マニュアル（平成27年4月修正）を策定しています。避難所運営委員会の災害時に備えた設立は、ご意見も参考に、地域の町会・自治会等や自主防災組織等、避難所運営に係る様々な主体との連携を図りながら、設立について整理していきます。
6	長寿を祝う会が南大沢で開催されたが、高齢で移動が難しい人もいる中、会場まで行った人だけお祝いのプレゼントを渡すのはどういう考えか。ボールペンやティッシュの1個でも良いので、郵便で送る、由木東市民センターでお茶会等を開催する等、やりようがある。	市では、老人福祉法に基づき、老人週間を契機としてオリンパスホール八王子及び南大沢文化会館において、「長寿を祝う会」を開催してきました。高齢者へ生活の安全、安心、医療、介護、健康といった行政情報を直接伝える貴重な機会と考えており、ご来場いただいた方にはお土産をお渡ししております。ご意見は、今後の会の運営等の参考にいたします。